

水稻（2023年）

試験概要：

- 慣行施肥区および減肥区でユートリシャN処理による収量への影響を確認した。
- 減肥区は作物にとって過酷条件下での効果確認のために設置したものであり、減肥を推奨したり、減肥下での収量補填を約束するものではありませんのでご注意ください。

試験結果：

- 慣行施肥区および減肥区でユートリシャN処理区の平均収量が増加した。
- 窒素施用量の少ない減肥区では、より顕著にユートリシャNによる増収効果が見られた。
- ユートリシャN処理区では、ほ場内地点ごとの収量バラつきが少なく平均的に高い収量が得られた（写真）

試験設計

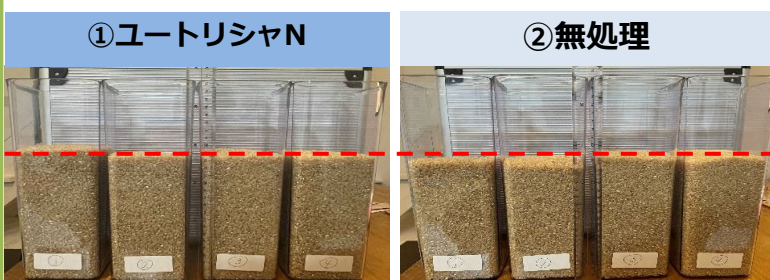
	施肥設計	ユートリシャN散布
試験区①	慣行施肥 106.3 Kg N/ha	あり
試験区②		なし
試験区③	減肥 70.3 Kg N/ha（33%減*）	あり
試験区④		なし

*減肥はNのみ。PKは慣行区と同等量。

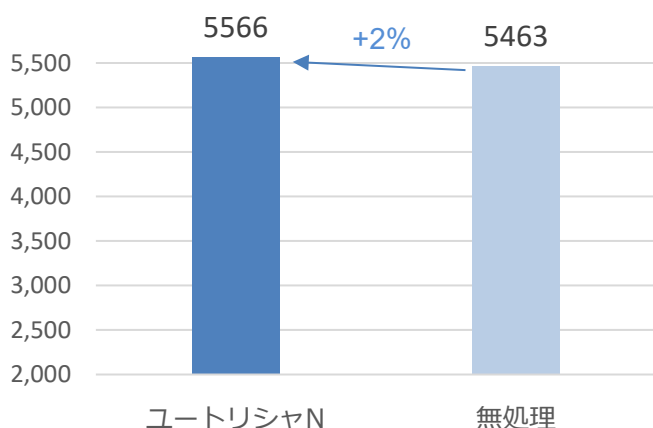
- 試験場所：北海道 ・品種：ななつぼし 4月20日播種、5月20日移植 ・試験規模：1区2500㎡、2反復
- 試験方法：慣行施肥区と減肥区それぞれにユートリシャNを1回散布し、無処理区との比較を行った
- 散布方法：移植45日後にユートリシャN（333g/ha）の希釈液（100L/10a）を動力噴霧器で散布した
- 調査方法：小規模調査/ 9月12-13日に各試験区25株 x 4 地点収穫し、収量を計測した
大規模調査/ 9月13日にコンバインで全量収穫し、収量を計測、1haあたりの収量を算出した

慣行施肥区

■ 25株収量の比較（試験区あたり4地点）



■ 1haあたりの収量の比較（精玄米重、Kg）



減肥区

■ 25株収量の比較（試験区あたり4地点）



■ 1haあたりの収量の比較（精玄米重、Kg）

